

天才エンジニアが生み出した 真空管採用の音楽性豊かなUSB DAC



Photo by 田代法生

192kHz/24bitや、最近流行りのDSDなど、ネットオーディオの世界にお いてはしばしばフォーマットやスペックの話がでることが多い。しかし、音 楽再生機器として最も大切なのは何だろうか。それは紛れもなく"音"その ものである。EARから登場したDACuteは、そういった意味でも、大きな意 義のある製品である。EARを率いるのは、レコーディングスタジオやミュー ジシャンからも高い支持を獲得する天才エンジニア、ティム・デ・パラ ヴィチーニ。同氏はこのユニークなDACで、ネットオー ディオ界をさらに面白くしてくれた。

> EAR DACute ¥764.400(ブラック仕様)

Specifications

●DAコンバーター: 24bitマルチレベルΔΣコンバージョン●対応サンブリング周波数: 32~192kHz(USB)、44.1~192kHz(RCA同軸)、44.1~96kHz(光TOS)●ビットレート:16/24bit●出力インビーダンス:<600(バランスまたはシングルエンド)●推奨 負荷:>6000(バランスまたはシングルエンド)●重率:<196●周波数特性:20Hz~ 20kHz●デジタル入力:USB(8タイプ)×1、RCA同軸×2、光TOS×1●出力:RCA ×1、XLF×1●使用真空管:PCC88×2、6DJ8×1●サイズ:435W×95H× 320Dmm●その他のラインアップ:クローム仕様(¥837,900)、※日本限定でラッケマ ウントの「Definitive DAC1も用意(¥837,900)●取り扱い:ヨンノトレーディング(株)

USB 入力 最大サンプルレート/bit 数 ▶192kHz/24bit

ア 音 楽 0 魅 か 演奏 ジ の タ 醌 ル 醐に 味関 を味わえる製品係なく

を鳴ら

ーアンプ ンプを通

176.4 0 SAMPLING FREQUENCY

本機のサンプルレートは最大で192kHzの音源に対

ンプ、

イコライザー等々だ。こう

やリミッ

ター、

マイクロフォンア

ティングマシン、

コンプレッサー

たくさん作っている。

テープレコ

ダーやアナログレコードのカッ

ィオ用だけでなくプロ用の機材も

ちなみにEARはホームオーデ

USB 入力を 持ち、

ハイレゾデー

したものを作ってきたEARが、

A CAUT d^p Ace (ô) (ô) $\hat{\mathbf{o}}$

というイメージだが、

最近になっ

と音のいい真空管アンプの設計者

-ムオーディオのファンからする

している。

主宰者はティム・デ・ ケンブリッジに誕生

977年、

EARはイギリスのメーカーで

パラヴィチーニだ。古くからのホ

本機のリア部。デジタル入力はUSB(Bタイプ)のほか、RCA同軸×2、光TOSを用意。ボリュームコントロール が可能なので、さまざまなデジタル機器を組み合わせた「DACプリ」としての使い方も可能。アナログ出力は RCAとXLR(2番ホット)を用意する

DACuteを開発したEARのティ ム・デ・パラヴィチーニ。常に音 楽性に溢れた製品を開発しつづ **CECに通れていて表面を用来し ジン けており、コンシューマーオーディ オに留まらずレコーディングエン ジニアやミュージシャンからも大 きな支持を獲得。しばしば「天才」 「鬼才」と称される人物だ。DAC uteは「デジタル音源なのかと耳 を疑うアナログライクな音楽性」 というコンセプトで開発されたと

いうのも、同氏らしいエピソードだ

してもい を判断し エンジー 聴き直 ユージシ

イングス

別の言

2本の

か音体るぞしいな的ン

音楽性

ちなみ

日本限定モデルとしてラックマウントの「Definitive DAC」も用意(¥837,900)も用意。スタジオ で実績を積んだブランドらしい演出だ

覚的に言

く時の消

12 アは出式 ト 徴 なる ご デ い 1 言 言

帯域レ

が、

音楽

製品。

の存在感

る時のよ 味でアナ

ち上がり

線の太さ

言って、

興味津

いる音と

製品にと思う。	した方がDACuteの良
の魅力、演奏の醍醐味を味わ	やアクティブスピーカー
グとかデジタルに関係なく、	さず、ダイレクトにパワ
ータはPCM系だけだが、ア	いてみるとほかのプリア
DACuteで扱うデジタ	で音量調節ができるが、
と思う時がある。	だ。フロントパネルのボ
を捉えきれていないのではない	ちらも5 Vという非常に
いまのフォーマットでは真実の	(2番ホット)を持ってい
特有の音を持っていること自	に出力はアンバランスと
れに特有の音の傾向を持ってい	※7、二番 しし ア語語
MとDSDがあり、現状、それ	一を大事こした没計
デジタルの音のデータには、P	
れそうだが、そんなことはな	いかもしれない。
な製品で古い感じの音だと誤知	やすい音という言い方を
スとかアナログとか、回顧趣味	アにとってはOKテイク
こう書くと、真空管とかトニ	した時にのれる音であり、
たと名言しているくらいだ。	ャンが自分たちの演奏を
ナログライクな音楽性」を目北	タジオで採用されて、ミ
「デジタル音源なのかと耳を疑う	い方をすれば、レコーデ
力段である。そもそもメーカー	
トランスカップリングを備えた	が高く、音楽がよく鳴る
ランスが連結された、チューブ	にとって一番大事な中域
は、2本の真空管PCC88と	ジが狭いわけではない
い。しかしこの製品の最大の時	「えば音がおいしいのだ。
DACデバイス等のパーツ名は	え際の美しさがある。感
と表示されているが、使ってい	の良さと音が減衰してい
ルタ・シグマコンバージョン方	、音像の彫りの深さ、立
ては「24 bitマルチレベル・	うな滑らかさとか、音の
タルの音作りだ。DAC部につ	ログレコードを聴いてい
い方をした方が適切に感じるト	はずいぶん違う。いい意
った意味ではDACプリという	ほかのメーカーの作って
さかより明確に出てくる。そう	々で聴いてみた。率直に

応。インジケーターも明るく見やすい表示だ

表した。

のDACute (ダキュート)を発 たような構成のDAコンバーター のAcute3 CDをリリースし

品が面白い。まずCDプレーヤー

て展開し始めたデジタル関連の製

た後、

そのCDドライブ部を取っ





高い出力

実際に
聴 リューム るが、ど バランス

える

東 ロ デ

タを再生できる製品を出してきた

のだ。

感覚的に言えば音がおいしい ほかのDACとはずいぶん違う